

私が教員になるまで

北村徳之介

1. 大学入学から教員採用試験に合格するまで

私が教員採用試験に合格したのは、24歳の時だ。自身の進路に非常に迷い、紆余曲折を経て教員採用試験に合格することができた。

私が教員を志したのは、高校3年生の時だ。高卒での就職を考えていたが、両親と相談した結果大学に進学することになった。行くからには何か資格や免許を取得したいと思い、幼少期から憧れていた教員を目指すことになり、好きだった国語科の教員免許の取れる神戸学院大学人文学部に入学した。

大学生活は、アルバイトと授業に明け暮れた日々だった。しかし、学年を重ねるにつれて、授業よりアルバイトに重きを置いてしまった。その結果、取得単位が足らず、4年生で教育実習に行くことができず、4年間で教員免許を取得することができなくなってしまった。免許取得のためにはさらに1年間大学に通わなければならない、自分の怠慢でこれ以上両親に迷惑はかけたくないと思い、教員の道を諦め、卒業後、一般企業へ就職した。

就職後、仕事に不満はなかったが、どうしても一度諦めた教員の道が諦めきれず、免許取得のための情報を調べていた。その時に母校である神戸学院大学の科目等履修生の制度を知った。授業料も安く、自分で払える範囲だったため、親にあまり迷惑をかけずに再度教員を目指せると思い、会社を退職し、科目等履修生になった。

その後、1年半科目等履修生として単位を取得し、教員採用試験に合格することができた。これが私の大学入学から教員採用試験に合格するまでの6年間である。

2. 併願の可能性

私は兵庫県と福岡市の二か所の自治体の教員採用試験を受験した。第一志望は地元の兵庫県だったが、不合格だった。しかし、第二志望の福岡市には合格することができ、私の教員への道は開けた。第一志望だけに絞って、不合格だった場合は講師登録をし、次の採用試験に備えるという選択肢もあるが、勤務場所にこだわりがない方や地元外でも合格したいという方は併願の検討をお勧めする。

私は併願をし、合格することができたので併願のメリットについて述べる。

メリットは、試験を複数回受けられることだ。一発勝負ではなく、後があるというのは心理的にプラスに働く。さらに、教員採用試験を受けた感想として、経験したことのない独特の空気感を私は感じた。その会場に二度、三度行くことで場慣れができる。場慣れすることによって、勉強してきた成果を十分に発揮できる。

私のように第一志望に落ちて、第二志望に合格できた場合にもメリットがある。数年教員としての経験を積めば、次にもう一度、第一志望の教員採用試験を受ける際に加点がも

らえる自治体が多いのもメリットとして挙げられる。

しかし、デメリットもある。教員採用試験は自治体によって形態や問題が大きく異なる。そのため、併願をする際は複数の対策をする必要がある。

上記で述べたように、メリットもデメリットもある。試験対策をする前に、試験について綿密に調べ、専願か併願か決めてから試験対策をしていくのが良い。

3. 教員を目指す皆さんへ

ここまで、拙い文章で述べてきたように、これが私の合格体験記である。ここまで読んでいただいた方はお分かりのように、順調に教員になれたわけではない。しかし、遠回りながらも教員になることができた。私からアドバイスが二つある。

教員を目指されている方へ

教職サポート室を積極的に利用したほうが良い。試験対策を始めてから、試験まで非常に長く、モチベーションの維持が難しい。サポート室には丁寧にやさしく指導してくれる先生がいる。さらに一緒に採用試験合格を目指す仲間がいる。私の場合はサポート室に行くことで、モチベーションを維持することができた。科目等履修生だったため、途中から輪に入れてくれた仲間たち、国語科の小壽先生、田坂先生には感謝しかない。私はサポート室に行ったおかげで合格することができたといっても過言ではない。ぜひ、教員を目指されている方は教職サポート室に行くことをお勧めする。

教員になるか迷われている方へ

まずは、教育実習に行けるように単位を取るべきだと考える。実習に行くことがなりたいたいかなりたくないか決断する、迷いが消える一番大きなチャンスである。まずは教育実習に行ってみよう。その後の選択はそれぞれが考えて決めることである。私のように企業で働いたのち教員になることやその反対もできるので、その時のベストの選択をしてほしい。